

①経営体の概要

- 所在地:宮崎県串間市
- 経営体名:酪農経営 城 薫
- 飼養頭数:経産牛 約70頭(搾乳牛 約60頭) 育成牛 約40頭
- 従事者数:4名(経営主夫婦、両親)

②導入技術・システム(商品名・サービス名と企業名)

- 搾乳ロボット:LELY社製(オランダ) アストロノートA4
- ソフトウェア:アストロノート専用飼養管理ソフト「T4C」



LELY社製搾乳ロボット



タッチパネル式モニター

③導入の経緯

- 将来を見据え、子供たちが見て、やりたいと思える酪農経営実現のための先行投資と考え、フリーストール牛舎の新設と搾乳ロボットの導入を決意。

④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- 畜産クラスター事業

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 搾乳ロボットの導入により、これまで朝夕1日2回ミルカーにより家族総出で搾乳していた労働時間(約2時間×2回)の削減が図られ、特に両親への負担が解消されたことにより、家族経営による規模拡大が可能。
- 飼養規模の拡大目標(搾乳牛)。
 - ・70頭(R元) → 100頭(R4)(増頭中)
- 1日1頭当たり平均乳量の増加。
 - ・フリーストール牛舎による快適な環境と搾乳ロボットにより牛が搾られたいタイミングで昼夜問わず搾乳が可能。
 - 約30kg → 約37kg (R2.1月現在)
- 牛を観る時間が増えるとともに、搾乳ロボットの反芻時間等のデータにより、これまで以上に牛群の健康管理が可能。
- 分娩監視・発情発見装置(牛温恵)の導入により、分娩兆候の見回りが削減。



搾乳を待つために列を作る牛



搾乳の様子

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- フリーストール牛舎になった当初は、繋ぎ牛舎との飼養の違いに苦労。
- 今後増頭するに当たり、牛舎のふん尿処理が妨げとなっており、省力化を踏まえた対策が必要。